

団体名：介護・認知症の家族と歩む会・松戸

事業・活動名：にこにこ広場開設推進活動

使途&助成金額：報償費、印刷製本費、DVD 製作費、会場費他 240,000 円

【代表の北川さんプロフィール】

昼夜逆転の認知症のお母さまを5年間在宅で介護、その後ご自身も心筋梗塞・脳梗塞で倒れ半身マヒとなり、言葉も失いました。2年後にはご自分の顔すらわからないほどの深刻な認知症から、想像を絶するリハビリを行い、回復。また、昨年にはレビー小体型認知症を発症し、幻視で苦しみながらも「高齢者が安心して暮らせる街づくり」を目指し、精力的に活動しています。

【日頃の活動内容】

介護する方と介護される方、双方の悩みに寄り添いながら、主に以下の内容で活動しています。

- ・講座「認知症ってどんな病気？」介護される当事者の声（心情・葛藤）を中心とした情報
- ・講座「認知症は改善できる」症状の改善の可能性の情報を届け、本人・家族の諦め不安からの解放
- ・ワークショップ「ことば」の持つ力を広める「かがみ遊び」「宝探し」体験の提供
- ・相談会・交流会 不安や悩みを吐露し合える仲間作りの時間・場の提供→にこにこ広場等
- ・訪問相談

【にこにこ広場に参加しての感想】

相談に来られていた方に伝えていた北川さんの一言が印象的でした。「生かされている意味がある、長生きしたら勝ち！」誰かのために声をかけて、心を遣うこと。色々な方にお世話になっていることを感じて、自分も別の方に声をかける。そこから生まれる繋がりを大切にしたい、と仰っていました。相談に来た方は、「今日来て色々お話できて良かった」と仰って帰って行かれました。

北川さんの想像を絶するリハビリを乗り越えられたのは、周りの仲間からの支えと仰っていましたが、ご本人の精神力の強さもあると、話を聞いて感じました。

にこにこ広場には、同じ境遇で、同じ苦悩を抱えた方が集まっています。悩みを共有することで精神的な負担を軽減し、気分転換になっているようでした。

国民的な病気ともいえる認知症は、人ごとではなく、親戚や隣近所、我が家の問題、あるいは自分自身の問題でもあります。認知症は、本人にとっても介護する方にとっても確かに大変な病気ですが、周りの人が、当事者や、介護する方の苦悩を理解し、少しでも支援の手を差し伸べることができれば、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるのではないかと思います。

私も周りにアンテナを張って、このような場所があるという情報をお伝えするなど、ちょっとしたおせっかいができる人になりたいです。

福祉委員 古川由美子



●ネコクリップ：94歳の認知症の方手作り(左)
月に100個近く制作することも・・・

●靴下カバー：88歳の認知症の方手作り(右)
誰かのために作ることで、
人に必要とされていると感じ、
生きがいにつながっているようです。



認知症の人の気持ちと一緒に学びませんか

語り人・北川邦彦さん（柏市在住）
昼夜逆転の認知症の母親を在宅で5年間介護、ご自身も平成16年脳梗塞・心筋梗塞で倒れ(要介護3)半身麻痺となり、言葉も失う。平成19年に自分の顔も分からない重度の認知症発症、平成28年脳出血により視野狭窄・下肢麻痺で車イス生活、令和2年年末心不全に体重が激減、令和3年7月レビー小体型認知症を発症、令和4年1月心不全「前回よりも酷いと医師」それでもよく頑張る、まえられリハビリを続けながら、現在。「高齢者が安心して暮らせる街づくり」を目指し、認知症当事者としての「意見と変革」の語り部として各地で活動中。
【出前・出張講座お気軽にお問い合わせください】

ちょっと役立つ〜葉〜

認知症の家族と歩む会
58千葉県柏市豊上町22-11
交流サロン「江陽」
TEL 090-5509-5398
ao31212@s6.dion.ne.jp

活動促進基金
らぶ基金

